

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	公益財団法人梅若研能会
公演団体名	公益財団法人梅若研能会

内容		
1 始まりの挨拶	先生又は生徒	3分
		2~6 40分
2 能のお話し	(能の歴史 シテ、ワキ、お囃子(はやし)、狂言等の役割)	
3 演目のあらましと試技	・船弁慶の共演する場面を実演してみせる	
4 装束付け実演	・先生をモデルにして(船弁慶の前シテ静御前の姿に) ・装束付け後、能面を付けてのハコビ(すり足歩行)をしてもらう	
5 能面とハコビの体験	・子方(義経)の候補者6名程度の選抜を依頼 ・生徒に能面を付けてハコビ(すり足歩行)をしてもらう (3人づつ2回)	
6 謡の稽古	生徒(6人)が下記の詞章を謡う。声の大きさは選考基準の要素となる (その時義経少しも騒がず) 全校生徒は、能楽師の足拍子に合わせて手拍子の練習をする。	
休憩		10分
		7~10 50分
7 体験稽古	子方(義経)とシテ(知盛の怨霊)との太刀を合わせる稽古	
8 稽古発表と流れでの説明	・太刀を付けてのハコビ(幕から子方の所定置まで) ・太刀の使い方 ・床几(しょうぎ)の座り方・船への乗り降り	
9 子方(義経)役1人を選抜	1名は予備要員として本公演まで練習をしてもらう 他の5名は、太鼓の稽古(2名)、幕上げ、子方後見等の 楽屋働きと狂言体験(3名)をする	
10 終わりの挨拶(生徒)	ありがとうございました	
(注)コロナウイルスの感染防止対策として、「時間短縮」・「参加人数の制限」等の要請があった場合は、「実施項目、休憩時間等の削除」等の対応措置を講じ、柔軟に対応いたします		

タイムスケジュール (標準)	
・楽屋入り 12:45	・準備 12:50~13:20
・片付け ~15:30	・開演 13:30
	・公演終了 15:10
注) 開演時間:13:30分を例としたタイムスケジュールです	

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
○主指導者 1 名 補助者 3 名 ○スタッフ 1 名 合計 5 名
学校における事前指導
稽古用 DVD・・・ワークショップ後に子方(義経)役と予備要員に稽古用として渡す ※長机 2 折り畳み椅子 4 ハンドマイク 1(用意をお願いします)

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業一巡回公演事業一

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	公益財団法人梅若研能会
公演団体名	公益財団法人梅若研能会

演目		
始まりの挨拶	先生又は生徒	2分
(第一部)	(狂言を見て体験してみよう)	
1 狂言	「盆山(ぼんさん)」	15分
2 狂言の所作の説明と稽古	人物、動物等のセリフ、鳴き声等 代表3名動きの稽古	10分
	* 子方(義経)は着替えをする	
3 全員で挨拶	ありがとうございました	
(第二部)	(船弁慶の通し稽古)	
4 義経の稽古	装束を付けて登場 幕から舞台に出て、所定の場所で舟に乗り、怨霊との斬り組みから引くまでの動きを練習する。 手拍子でリズムの練習をする。	8分
5 太鼓の稽古	・太鼓を打ってみよう・・・代表2名の太鼓の稽古	
	(太鼓に合わせて能楽師が謡う)「その時義経少しも騒がず」	
	休憩 (舞台に入らないよう注意する)	
(第三部)	(船弁慶の鑑賞と体験)	
6 能 船弁慶	・共演してみよう(生徒が義経の装束を付けて登場する) ・ワークショップでの知識をもとに、能を楽しみましょう	25分
7 終わりの挨拶	ありがとうございました。 先生又は生徒	
8 感想・質疑	・共演・鑑賞した生徒の感想及び質疑(先生・生徒・保護者)	10分
(注)コロナウイルスの感染防止対策として、「時間短縮」・「参加人数の制限」等の要請があった場合は、「実施項目、休憩時間等の削除」等の対応措置を講じ、柔軟に対応いたします。		

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください	
出演者 シテ方 11名 ワキ方 2名 狂言方 3名 囃子方 4名 計 20名	
スタッフ 1名、舞台業者1名・運搬業者1名	合計 23名

タイムスケジュール（標準）			
・楽屋入り	11:30	・舞台組立て	11:30～12:30
・舞台撤去	15:50	・開演	13:30
		・公演終了	15:10
注)開演時間:13:30 分を例としたタイムスケジュール			

実施校への協力依頼人員
よしつね ・義経の候補者6名程度選抜と最終1名にする相談と協力 ・義経(子方)役以外の5名は狂言と太鼓の体験稽古と子方後見・楽屋働きをする

演目解説
ぼんさん 「盆山」のあらすじ ぼん すな ふうけい おきもの ほ 盆山(盆の上に石や砂などで風景をかたどった置物)が欲しくてたまらない男(シテ)は、 かずおお なにがし たの ぬす 盆山を数多く持っている人(何某/アド)にいくら頼んでも分けてくれないので、こっそり盗みにやってくる。垣根を破って忍び込み、盆山を探しているところを見つかった男は、盆山の かぎね やぶ しの こ さが 陰に隠れる。何某は、盗人が顔見知りと気づき、さんざんになぶってやろうと、猿だ、犬だと かぜ かく ぬすっと か おみし さる いい、男はその都度鳴き真似をする。何某は、面白がって今度は、鯛だと言いだす。鳴かないと打ち殺すと脅かされて、男は苦し紛れに「タイタイ」と言いながら逃げ出す。 ころ おど まぎ に ※「タイタイ」は、狂言の家により「タイ！」と一声もある。 きょうげん 能「船弁慶」のあらすじ げんじ へいけ あらそ ものがたり おお よしつね べんけい どうじょう 源氏と平家の争いの物語で多くの人が知っている義経や弁慶が登場するわかりやすい のう ぜんはん しずかご ぜん わか ばめん しょうりやく 能です。(前半は 静 御前との別れの場面ですので省略します) さいこく い ふね かいじょう だ さいしょ は そら くろ くも ま おそ 西国へ行くために、船を海上に出すと最初は晴れていた空に黒い雲が・・・間もなく恐ろしい暴風が吹き、海が荒れて船は大波に漂う木の葉のよう。船頭(アイ)が荒れ狂う波風と ぼうふう ふ うみ あ おおなみ ただよ こ は せんどう あ くる なみかぜ 格闘する場面が見ものです。壇ノ浦(山口県下関)で義経に滅ぼされた平家一族の 平 知 かくとう ばめん だんのうら ほろ へいけいちぞく たいらのとも 盛の怨霊が現れて義経(子方)に襲い掛かります。怨霊は、弁慶の必死の祈りによって、夜 もり おんりょう あらわ こかた おそ か ひっし いの よ が明けるころ沖の彼方へと姿を消すのでした。 あ おき かなた すがた け

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

能 船弁慶では、義経(子方)の役を生徒に出演してもらいます。

友達が能装束をつけて舞台に上がると、始めて見る装束のため、強い関心を示して生徒たちの集中力が途切れることはありません。

また、代表の生徒たちによる狂言・太鼓の稽古と謡い^{うた}練習など、体験参加を主体とした公演にしております。過去 4 年の公演で、この方式を採用してまいりました。能への理解と関心を高める効果があると受け止めております。

児童生徒とのふれあい

この公演では、生徒全員に「すり足歩行」と「拍子」の体験をしてもらい、視ている、聴いているとき

は、簡単と思えた「歩く」、「間(リズム)」の難しさが分かります。難しいゆえに生徒たちとの「ふれあい」が生まれ和やかな雰囲気を生じています。

また、公演が終了すると、知盛の怨霊(シテ)の能楽師が装束を付けた状態で、「質疑応答」に入ります。聞きたいことは何でも質問するよう誘導に努めており、能面をつけた舞台上での感覚、どうして能楽師になったか等活発な質問があります。この「質疑応答」が能の理解を深める「ふれあい」の場ととらえています。